

令和2年度終業式式辞

令和3年3月19日

まずは、中学校3年生の皆さん、卒業おめでとう。

中学校生活の3年間で、皆さんはいろいろなことを経験してきました。その中には、辛いことや悲しいこともあったらと思いますが、それらすべてが、君たち一人一人の人生の学びにつながっているのです。心身ともに成長して、卒業の日を迎えてくれたことをうれしく思います。

4月からは高校生、さらなる飛躍を期待しています。

さて、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で今年度がスタートし、約二ヶ月間の臨時休業があり、前・後期制を導入した令和2年度も、本日、終業式（修了式）を迎えました。

なかなか落ち着かない一年ではありましたが、季節だけは例年と変わらずに巡り、校庭で聞く鶯の鳴き声に春の訪れを実感できる時期を迎えました。この3月から4月、年度変わりというのは、皆さんにとって、学校生活における大きな節目の一つです。

私は、人生における節目は人によって、その回数もその意義も異なるものだと思います。例えば、部活動で大きな経験をしたとか、すごく感銘した本に出会い人生を考えさせられたとか、他人からの言葉ですごく励まされた、また逆にすごく落ち込んだことも含めて、その人にとっての節目だと思います。

竹は、「節」があるからこそ、しなやかで、強く、高く成長していきます。そして、節目の数が多いほど根っこがしっかりしていると言われていています。だから、私たちも節目を大切にしながら、成長をしてきたのです。

私は、節目を大切にされるのはもう一つ理由があると思っています。それは「竹も節目からしか新しい芽が出ないからだ」なんだと。だから、皆さんにとっては、今が新しい芽を出す時期なのです。今年度一年間を振り返り、まだまだ足らなかったことは何か、もう少し伸ばしたいことは何か、そんなことを真剣に考え、新たな芽を芽吹かせてください。

特に、高2の皆さんは、まもなく高校3年生となります。昨年9月の文化祭終了時から、本格的な受験体制に入り、進路目標もかなり具体的になりつつあるのではないのでしょうか。わずか二週間の春休みも、新芽を出すには十分な期間です。大切に過ごし、今の自分を知り、自身の芽吹きを実感してくれることを願っています。

少し話を変えて「読解力」について話をします。皆さんは「読解力とは？」という問いに対し、何と答えるでしょうか。

学力の国際調査（PISA調査）では、「読解力」を「効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義されています。

また、今年度から始まった大学入学共通テストにおいても、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことを重視して出題されるようになり、今後もその傾向が強くなることが予想されます。この「思考力、判断力、表現力を発揮して解くこと」こそが、国際調査のいうところの「書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」であり、単に「小説や評論などの文章を正確かつ詳細に読むこと」にとどまらず、広い意味の「読解力」ということなのです。

共通テストにおいては、「書かれたテキスト」というものを「文学的文章や説明的文章」だけではなく、「図や表・グラフ」「様々なデータや現象」「歴史的出来事や今日的な事象」などに置き換え、すべての教科において「読解力」を求めて出題されます。このような出題に対しては、「論理的読解力」つまり「多角的に物事を見ることが出来る力」が必要となります。

さらに先日私が読んだ本では、「読解力」をもう少し広く捉えられており、「自分以外の他者、直面した状況など多岐にわたる『相手』のことを『正しく理解する力』」と定義され、「情緒的読解力」という言葉で表現されていました。「情緒的読解力」とは、「自分とはまったく違う境遇にある人、考え方が異なる人、自分が体験したことのない意見をもつ人に対しても、共感できる力」であると説明されています。

私たちは、みんな異なった環境で育ち、それぞれ異なった体験をし、兄弟といえども、それぞれ個々の特性があります。だからこそ、異なった個人が集まる学校では、互いの違いを理解し、相手のことを知り、共感できる力を身につけていくが大切であり、このことが「読解力」の向上につながっていると言えるのです。

中学生にとっては、少し難しい話になったかも知れませんが、視点を変えて話をしておきます。

皆さんは、身体的にも精神的にも子供から大人へと切り替わる時期にあります。子供でもあり大人でもあるみなさんが、身に付けるべき力の一つに「分別（ぶんべつ）する力」があります。分別するとは「物事の善し悪しや正しい筋道を考えて判断する」ことです。その判断のポイントとなるのが、判断すべき

ことが、「自分」、「相手」、「周り（社会）」それぞれにとって良いことなのかという見方で考えることです。これを「三方（さんぽう）よし」といいます。

皆さんは普段からこのことを踏まえて判断しているとは思いますが、うまくいかないときもあるでしょう。そのようなときは、判断の基準が自分の方に寄り過ぎていたり、相手の方に寄り過ぎていたり、周りに対し迷惑なことになっていたりするかもしれません。また、意識するしないにかかわらず、他者に対し、いやな思いをさせたりしていることがあるかも知れません。こうしたことも振り返りながら、私たち一人一人が、バランスの良い判断をしていく力を身に付けていく必要があります。そのことが「読解力」を養うことになるのです。

奈良学園の皆さんには、日頃から「読解力」の向上を意識しながら生活してくれることを期待します。

最後に、やはり新型コロナウイルス感染症のことに触れておかなければなりません。関西では緊急事態宣言が2月末をもって解除され、首都圏においても明後日で解除されそうな様子です。しかしながら、感染力の高いとされる変異株の新型コロナウイルス感染者も増えつつあります。今後も、新型コロナウイルス感染症が発生する前の状況にもどるのはずっと先のことで、まだまだ感染しない、させない対策が求められます。

本格的な春を迎え、人々の気持ちも明るく陽気になるわけですが、マスクの着用、うがい・手洗いなどはもちろんのことですが、休み中の部活動や遊びに行ったときもマスクをとって会話はしないこと、友達との食事は極力避けるということを守ってください。

「コロナに慣れない！ コロナをなめない！」

このことに肝に銘じ、家族や奈良学園の安全安心を守っていきましょう。

4月にまた、元気な皆さんと会えることを楽しみにしています。